

二 図書委員になって

月 日 道男

このあいだ転校していった水谷君のかわりに、僕が図書委員に選挙された。きょうの自治会では、水谷君の手紙を読んだり、学級文庫をよくすることを相談したりした。水谷君の手紙は、もうひとりの図書委員の中村まさ子さんが読みあげた。水谷君は、こんどいった学校の図書室や学級文庫のことを知らせたあとで、さっそく県立図書館にお友だちと見学にいったときのことをくわしく書いてくれていた。それは次のようである。県立図書館は、公園のなかにあります。おとなの入口と子どもの入口とは別になっています。係の人に、先生からの手紙を出すと、それではおとなのほうから案内してあげましょうといって、おとなの入口の方へつれていってくれました。おとなの方の入口で料金をはらって、閲覧証という番号のついて用紙をもらいます。ぼくたちは、番号のついていないのを一枚ずつ貸してもらいました。それには自分の住所・氏名・職業・年れいなど、読みたい本の名を書くと

閲覧証番号		〇〇〇〇図書館 普通図書閲覧票		交付年月日	
図書は目録及び書架に就いてお探しの上本票にその番号と書名を明記して出納所にお出してください。					
本の番号	書名	冊数	受領		

住所	区 町 丁目		番地	方	
職業	姓名				

の住所・氏名・職業・年れいなどと、読みたい本の名を書くところがありました。階段をのぼると、引き出しのついた箱がいくつもならべておあります。いくにんもの人が引き出しをぬいて、そのなかにあるカードで本をさがしていました。ここは目録室といって、借りたい本の名がわかっている人には、その本の番号を教え、しらべたいことがきまっても、どんな本がよいのかわからない人には、本の名やその番号を教えてくださいと

ころです。
本を書いた人の名前からも、その図書館にある本をさがすこ

とができるそうです。係の人が何か見たい本がありますか、といわれるので、ぼくは、いつか先生にみせていただいた「水産の話」という本です、といったら、スの字の所を引いて、番号を教えてくださいました。

ぼくたちは、その本の名と著者の名や番号を、さっきの閲覧証に書いてみました。係の人はもうひとつの引き出しに、水産についてのいろいろな本のカードがあることを教えてくださって、一

冊だけ見たい本を書いたのでは、その本をほかの人が借りている場合もありますから、水産についての本を何冊か申しこむほうがよいと、教えてくださいました。この用紙をもって、次の室の出納係の所へ行きました。ここではおおぜいの人が、本をもってきてくれるのを待っています。出納手の少年が、たくさんの本をかかえて書庫から出てきました。出納係の人はそれを受け取ると、

外国のおもな図書館
(蔵書数 100 万冊以上のもの 1926 年現在)

館 名	創立	蔵書	館 名	創立	蔵書
大英博物館文庫	1753	万冊 300	レニングラード 国立公共図書館	1814	万冊 420
ケンブリッジ 大学図書館		120	レニングラード プーシュキンの家	1905	112
オックスフォード 大学ボドレー図書館	1602	104	ニューヨーク 公共図書館	1891	254
パリ国民図書館	1518	414	ハーバード大学 図書館	1638	232
ストラスブール 大学・地方図書館	1871	130	シカゴ公共図書館	1872	167
ミュンヘン バイエル国立図書館	1558 ～ 71	155	ボストン市 公共図書館	1854	144
ウィーン 大学図書館	1775	105	エール大学 図書館	1704	139
(ナポリ) ヴィクトルマニ ュエル三世王立国民図書館	1734	101	ニューヨーク市 コロンビア大学図書館	1754	136
マドリード 国民博物館文庫	1716	116	クリーヴランド 公共図書館	1869	130

閲覧証にあわせて、その名をよんで、本を渡します。案内の人はぼくたちの閲覧証をもったまま、事務室とのしきりになっているひらき戸をあけて中にはいりました。そしてぼくたちにも、はいるようにいわれました。ぼくたちは、事務室をぬけて、書庫に案内されました。大きな鉄のとびらが、両方におもおもしろくひらかれています。書庫のなかは暗くて、電燈がついています。高い本だなが何十とならんでいて、そ

のおもてにもうらにも、本がぎっしりと、よく整頓されてならべられています。古い新聞がひと月ごとにとじこまれていて、それが何枚かの、ぶあつい板のように、きちんと整理してある所もありました。また、古い雑誌が製本してならべてある棚もありました。本には、みな番号がついていて、その順にならんでいました。係の人は「水産の本」を番号にあわせて、たなの上の方からさがし出してみせてくださいました。いつかの本とおなじで、なつかしい気がしました。「水産の話」をもとの所におさめてから、ぼくたちは、書庫を出て事務室にいきました。まぶしいほど、急に明かるく感じました。

事務室の人たちは、新しい本を注文して買ったり、いたんだ本を修理させたり、本の目録をつくったり、本や閲覧者についての各種の統計をつくったり、書だなの整理や本の虫ぼしをしたり、館外貸出票の整理をしたり、思いがけないほどたくさんの仕事をしていることがわかりました。

ぼくたちが書庫を減額しているあいだに、出納手の少年が、何

度も何度もいききして、本を引き出していきました。はしごをあ

わが国のおもな図書館
(昭和 21 年 5 月 1 日現在)

蔵書冊数 5 万冊以上のもの (単位千冊)			
館 名	蔵書	館 名	蔵書
国立図書館	1038	縣立佐賀図書館	63
秋田縣立秋田図書館	115	長崎縣立長崎図書館	119
行幸記念山形縣立図書館	55	鹿児島縣立図書館	72
福島縣立図書館	61	市立小樽図書館	55
御成婚記念千葉縣図書館	69	函館図書館	85
都立日比谷図書館	50	前橋市立図書館	61
都立駿河台図書館	61	横浜市立図書館	71
明治記念新潟縣立図書館	104	金沢市立図書館	70
紀元二千六百年記念富山縣立図書館	65	市立飯田図書館	109
石川縣立図書館	90	市立名古屋図書館	67
縣立長野図書館	72	市立名古屋公衆図書館	85
葵文庫	64	神戸市立図書館	137
京都府立京都図書館	196	成田図書館	140
大阪府立図書館	350	財団法人岩瀬図書館	90
奈良縣立奈良図書館	84	財団法人大橋図書館	190
和歌山縣立図書館	69	慶応義塾藤山工業図書館	65
鳥取縣立鳥取図書館	59	叡山文庫	73
島根縣立松江図書館	56	天理図書館	160
山口縣立山口図書館	103	財団法人鎌田共済会図書館	57

がったり、おりたり、重い本を何冊もかかえて、いそぎ足で歩きまわる仕事は、ずいぶんつかれることだろうと思いました。夜学にいつている人も、昼まは学校にいつて、夜働いている人もいるそうです。図書館につとめている人は、いくらでも本が読めていいと思っていましたが、なかなかそんなやさしいことはなさそうです。

事務室を出てから、おとなの閲覧室をのぞきました。大きな机にそれぞれスタンドがついていて、たくさんの人が静かに本を読んだり、書きものを

したりしていました。つかれたのか、いねむりをしている人もありました。入口で閲覧証をかえして、公園に出ると、なんだかほっとしました。もう一度、子供の入口をとおって、児童閲覧室の方へいきました。ここは、ぼくたちの世界で、たいそう明かるく気持ちのよい室です。入口で料金をはらうこともありません。閲覧票は、係の人の机

の箱に入れてあります。本だなが事務室と閲覧室とのあいだにあって、ほしい本のあるなしがすぐわかります。

しかし、本だなのこちらがわに金あみがあるので、すぐとるわけにはいきません。やはりその本の番号や、名まえを閲覧票に書きこんで、係の人に事務室の方からとってもらうのです。小さな目録箱も用意してあって、金あみの本だなにない本で、ぼくたちに読めそうな本が、さがせるようになっていきます。

窓がわの本箱には、すぐとって読めるような本がきつしりとならべてあります。これは、閲覧票に書かずに読んでもよいのです。三、四年生は、おもにこのほうを読むようです。

係の人は四人ほどいて、ときどきみんなの読んでいるようすを

みまわったり、どんな本をよんだらよいのかということの相談にのってくれたりしています。ぼくは、館外貸出のしかたをきいり、それに必要な申込用紙をもらったりしました。

既設図書館数	
設立者	館数
国立	1
府県立	73
市立	200
町立	504
村立	1669
組合立	38
私立	854
計	3398

事務室にいつてからは、図書室の始まり、日本の図書館の数、外国の図書館のありさま、図書館を利用する人たち、図書館で困ることなどについて、かわるがわる筆問しました。みなさんやぼくのもう知っていることもあったわけです。図書館で困ることは、やはり本がなくなったり、本をよごしたり、その一部分をきりとったりする人のあること、なかなか買にくいこと、閲覧室がせまくて、希望する人全部を、待たせないで入館させることのできないこと、などということを書きました。水谷君は、リンカン伝と小公子の二冊の本をぼくたちの学級文庫に寄付してくれた。そこで、ぼくから水谷君に礼状をあげることになった。

学級文庫と交換すること、本をもっと増やすこと、本の整理をすること、などもきまった。学級文庫の交換は、中村さんと僕から、他の学級に話すことになっている。本を増やすには、学級で花を栽培し、これを売って、そのお金で本を買ってはどうか、という意見があって、本の修理は来週の工作の時間に、のりと糸とあつ紙をもちよってすることになった。先生は図書部の仕事はこれからいっそうたいせつになるといわれたが、ぼくもみんなのためにしっかりやろうと決心した。